

地域材（徳島杉）を利用したツーバイフォー部材開発

地域材（徳島杉）を利用したツーバイフォー部材としての合板代替品の開発

大利木材株式会社

#### 事業概要（目的、実施内容等）

- ① 徳島県は戦後の植林事業が他県より早くから行われた為、成熟した杉材が豊富にあり、県をあげて杉の有効活用に取り組んでいる。杉は木造建築の構造材としては、やや強度に問題があると指摘されるが、徳島産の杉は古くから足場板などに使われるなど、その強度や幅広製品に定評がある。

この度の 2X4 部材開発では、横使いにも期待できるのではないかとということで、2X4、2X6、2X8、2X10、2X12 まで製材し、枠組壁工法構造用製材の日本農林規格に法り、甲種 2 級を選別し（JAS 格付け士による）徳島県立森林研究所で試験を行い、カナダ産 S.P.F. 材との強度比較を行った。

- ② また、構造用合板の代替品として、構造用面材と化粧材の両方を担うパネルを製作し、実際の強度を測定した。パネルの寸法は 3X6 で、杉 KD 製品を本実横はぎ加工し、エッジも本実加工をほどこし、構造用合板と同じ施工法で試験パネルを製造し、国産杉構造用合板との強度比較を行った。